

総務文教委員会記録

令和2年6月15日（月）
11時15分～12時12分
第1委員会室

（委員）西村委員長、芦谷副委員長
三浦委員、西川委員、上野委員、永見委員、西田委員、牛尾委員
（総務文教委員会 所管管理職）
坂田総務部長、岡田地域政策部長、河上教育部長、琴野消防長
佐々木総務課長、大屋政策企画課長、草刈教育総務課長、宇津消防本部総務課長
猪狩総務課総務管理係長
（事務局）下間書記

【議題】

- 1 所管事務調査事項について
- 2 6月19日（金）の委員会審査日程等について
- 3 その他

◎ 令和2年6月定例会議 総務文教委員会審査について

日時：令和2年6月19日（金）10：00～ 場所：全員協議会室

【予定議題】

- 1 議案第44号 浜田市長等の損害賠償責任の一部免責に関する条例の制定について
- 2 議案第52号 浜田市消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例について
- 3 議案第54号 財産の取得について（高規格救急自動車）
- 4 議案第55号 財産の取得について（小型動力ポンプ付積載車）
- 5 議案第56号 訴えの提起について（消防救急無線デジタル化整備事業）
- 6 請願審査
 - (1) 請願第13号 萩・石見空港活性化に関する請願について
 - (2) 請願第14号 浜田市に在住する学生の家賃負担軽減を求める請願について
- 7 執行部からの報告事項
- 8 所管事務調査について
- 9 その他

【議事の経過】

〔 11 時 15 分 開議〕

西村委員長

ただいまから総務文教委員会を開会する。出席委員は8名で定足数に達している。では、レジュメに沿って進める。

1. 所管事務調査事項について

西村委員長

これから、6月19日（金）に開催する当委員会における所管事務調査について委員からの要望を伺いたい。

委員の皆から、資料提出を求めたいものや執行部に説明等を求める必要のある所管事務調査事項があれば、申し出ていただきたい。

三浦委員

今回、産業建設委員会の方に、公設仲買売場の家賃補助を求める陳情が出ている。他の指定管理施設における事業者コロナの影響が出ていると思うのだが、何か指定管理業者に対する補助の考えが、当委員会所管の施設に該当するものであるか、あれば対応についてどのようになっているか教えていただきたいのだが。

西村委員長

総務文教委員会の関係施設で、コロナの影響を受けていそうな所。

三浦委員

そう、所管委員会の施設においてコロナの影響を受けているところがあると思うが、補助を求める状況にあるのかといったものがあるのか。

総務部長

指定管理施設それぞれ、産業系のものもあるし、教育関係もある。今回のコロナの影響がどの程度あるか、どういう影響か、まさに整理している最中である。特に産業系あたりになると観光施設等もありますので、どうしようとまさにどういう影響があるかを拾っている最中である。最終的に方針は何らかの形で出していく必要があるが、今も動いている状態なので、金額をどこで捉えるかも含めて結論は出てない状態である。例えば総務文教関係施設について現在、こういう考え方でこういう影響がありそうだとといったものでもよろしいか。

三浦委員

はい。おそらくそれは産業建設委員会所管の施設だけに該当する考え方ではなく、市が指定管理をお願いしている施設はすべて市の施設だから、一貫した考え方を整理されるのだろうと思っている。所管施設におけるその影響がどれほどのものか、どう把握されているか、分かる範囲で教えていただきたい。

総務部長

最終的にこうしようという方針は決まっていない。所管委員会にはこういう施設があり、こういう状況だということを、まずご報告することにする。時間的なものもあるので、とりあえず現状についてご報告する。

三浦委員

そういったものが手元になく、改めて全部調査しなければいけないのならそれも労力がかかるので、整理される段階で出てくるならそれでも構わない。今の段階でお手を煩わせるのもどうかと思うところもあるので。然るべきタイミングで状況を教えていただきたい。

総務部長

市民の皆さんからの声のところまで上げておられたと思うので、行財政改革推進課が指定管理の担当である。認識はしている。ただ、申し上げたように今のこの段階で方針が決まっていない。現在は状況をヒアリングしている最中である。その中で所管委員会絡みでご報告できるものを準備して報告したい。

牛尾委員

今回請願第14号に関係するのだが、県立大学は相当な内部留保をお持ちだと聞いている。島根大学は学生1人あたり3万円を支給したという。これは1か月3万円に半年分乗じて貸与ということで、返さないといけないのだが。審査にあたって、県立大学の内部留保はどれくらいお持ちなのか、細かい金額は別にしても、どのくらいの体力をお持ちなのか、分かる範囲でぜひ調べていただきたい。僕はなぜ県立大学が自分たちの学生に支給をしないのか不思議でならない。請願審査にあたって、現状、大学の体力をわかる範囲で教えていただきたい。可能な範囲で、できなければ結構なのでお願いします。

地域政策部長

これは県立大学でもあるし、公表されているものもあろうかと思う。可能なところで出せるものを出していきたい。

西村委員長

先ほどの件は要するに、今やっている業務の流れの中で客観的な数値的なもので出せる範囲内だと捉えてよろしいか。皆さん、委員会として必要ということで良いか。

西田委員

三浦委員の言われていたのは、教育施設、文化施設といったところの状況だと思う。

西村委員長

ということで、執行部によろしくお願いします。

芦谷委員

資料は既存のもので良いのだが、いま、パソコンを1人1台だとか、学校のエアコン等、教育環境の整備がいろいろされている。それをどう進めていたのが、新型コロナウイルスの影響でどう変わるのか。既存資料で良いので、今後新型コロナウイルスも含めた教育環境の整備について、考え方や方向性が分かる資料を出していただき、少し議論したい。よろしくお願いします。

教育部長

資料の提出は良いのだが、今後の方針についてはまだ予算要求していない部分もあるので、なかなか出しにくい面もあるのだが、どういう言い方をさせてもらおうか。内々で思っているものはあるが、内部決裁もしていないし、予算を上程していない。方向性があるとなると、いわゆる予算が伴うことなので、国県に対して補助の制度を拡充するように要望することはしているが、数字はアバウトで良いか。

芦谷委員

難しい部分は良いが、考え方や現状、今後どうなるかはとても関心のある分野なので。特に次代を担う子どもたちの環境はどう変わるのかという視点で、持ち合わせの資料で良いので情報提供をお願いします。

教育部長

委員会としてはいろいろしたいが、出せる範囲でお示しすることをご理解いただきたい。

西村委員長

では、教育環境の整備について資料提出をお願いします。他に何か。

西田委員

教育環境整備だが、現在の学校の児童生徒に関わる、パソコンあるいはタブレットの置かれている状況。またはそういったものを使うこれからの方向性、考え方、設置状況が分かればお願いします。芦谷議員と同様などところもあるが。

西村委員長

他にないか。

(「なし」という声あり)

では議題1については以上とする。

下間次長

1件は請願に絡めての県立大学の件。その件は請願審査のところでお聞かせていただいてということで良いか。

西村委員長
下間次長

そのとおり。
所管事務調査にも入れつつ、ご説明いただくのは請願審査の時という
ことで。

西村委員長

その時で良いだろう。所管事務調査事項については終了する。

2. 6月19日（金）の委員会審査日程等について

西村委員長

10時から全員協議会室で委員会を行う。付託予定の議題はレジュメの
下枠内にある。予定議題の1から5まで、5件が市長提出議案となっている。
6番目の請願審査は、請願第13号については、議会にだけ提出されている。
請願第14号は、当委員会と産業建設委員会とに付託されている。

確認しておきたいのだが、請願第13号について、澁谷委員をはじめ5名
が紹介議員となっている。

紹介議員に出席を求めるかどうか、ここで確認しておきたい。まず、請
願第13号について。

西田委員

請願書の内容も明確に書かれている。いまの環境からして理解できる
ので、紹介議員の出席は不要かと思う。

牛尾委員

僕もこの内容については前から聞いていて十分分かっている。

西村委員長

他に、必要だという意見はあるか。

（ 「なし」という声あり ）

ないようなので、請願第13号については紹介議員の出席は求めないとい
うことでいきたい。

続いて請願第14号について。これは小川議員、野藤議員が紹介議員とな
っている。この2人に出席を求めるとお諮りしたい。

芦谷委員

新聞でこの内容を見たのだが、大学生が置かれている類似の状況とは
どうなのかといったように、少し視野を広げてみないと判断できない。
聞いていても学生の言いたい事がよく分からないので。執行部はこれと
類似案件について状況把握はしているか。情報提供できるか。

地域政策部長

市内にある専門学校、大学については、事務局とコロナの関係につい
てやり取りはしている。その中で家賃や生活状況をヒアリングして少し
聞いている部分はある。数値的には出ていないが、そういうお話はでき
るかもしれない。

牛尾委員

20年前にここに県立大学ができた時から、当時の学生部長が、当時か
ら恒常的に親の仕送りが1円もない学生が存在しており、その学生をどう
するのかということでのいろいろな意見交換をしながら今日まで来ている。
その後どうしたかということ、アルバイトを確保してあげる。要するに授
業料は親が支払ってくれるが、それ以外は自分でやれという。どうやっ
て学生の面倒をみるかという議論があった。そういう流れがあったが、
今回、働く場がなくなったことは直撃する。今急に出てきた問題ではな
く、今までもあったのだが、バイトがなくなる事態は今回が初めてなの
で、こういうことが出て来ても不思議ではない。そういう状況にあった
ことは事実である。これ、県立大学は県の大学なので、自分のところの
学生が本当に困っているなら島根県がどうするのか問われるべき。県立
大学は、内部留保はあるらしいので、なぜ自分のところの学生を助けな
いのか、僕はとても不満である。そういう事情で大学ができた時から恒

常的な問題としてあった。今、礼金は学生からもらわないことになっているはず。手数料というか。確かそれを当時やってきた。20年前のことだから皆知らないかもしれない。県が何をしているのか。この問題は昔から恒常的にあったということは知っておいてほしい。

西川委員

アンケートの4番目までは分かるのだが、5番目の、条例改正が必要になる可能性があるのではという質問がどういう意図なのか分からないので、紹介議員が説明できるなら良いが、アンケートの設問内容について分からない。

西村委員長

5番の意味を、その場での回答で良いのか。

西川委員

はい。

三浦委員

加えて良いか。アンケートの中身をどう読み解いたらいいのか私も疑問を持っているところがある。浜田の家賃が高いと思うかといった時に、ほとんどの人が高いと思うと思う。これが全国的に、比較して浜田市は高いのかどうか。数字の読み解き方を紹介議員に求めるのかどうか。どのように聞いたら良いのか。

西村委員長

紹介議員にもだが、請願者本人に出席を願うのかどうかも諮りたいと思っていたので、請願者が出席なら紹介議員は要らないという可能性もあると思う。それぞれ意見を頂戴したい。

芦谷委員

実態がよく分かるので請願者から説明してもらい、若干の質疑もした方が理解できる。ぜひ出席を求める。

西村委員長

請願者当人の出席を決定したい。2人の紹介議員についてはどうか。

牛尾委員

大学支援協議会等いろいろな組織がある。その中でこういう調査を何度もしている。だからそういう時の資料を。大学支援協議会の事務局は市にあるのではないか。

地域政策部長

支援協議会は市である。

牛尾委員

過去20年の歴史の中で、家賃が高いとか、そういうことをしている。急に降ってわいた話ではない。都度資料がある。それらもあるはずなので、資料を出してもらって。家賃が高いと言って下がるなら誰でも高いと言う。これは乱暴すぎる。しかし当人だけというのは気の毒な気がする。今までの資料があるはずだから、歴史があるのでそれらを一緒に出してもらい、併せてこのことを検討するのが良いのではないか。今まで知らん顔してきたわけではない。

三浦委員

私はできれば請願者ご本人からお話を聞きたい。ご本人が希望されれば紹介議員にも来ていただければ良い。

西村委員長

紹介議員を呼ぶかどうかは、できればこちらで決めておいたほうが良いと思うが。

下間次長

通知も出すので決めていただきたい。

西村委員長

どうか。大学生でもあるし紹介議員がおられた方がいい気がするが。

(「はい」という声あり)

牛尾委員

特に野藤議員は商店街の関係で県立大学との関わりを持っているから、この辺も分かっているから出してもらったほうが良いかもしれない。

西村委員長

では紹介議員は2人とも、請願者当人も併せて出席を求めるという結論にしたい。併せて大学の関係については、これまでの蓄積された資料等があるのではないかとというご指摘もあるので、地域政策部長はその資料

地域政策部長

を当たってみてほしい。

今回の請願は生活やバイトのことを取り上げた請願になっていると思うが、大学を支える会は自分たちでやっているのだから、どの程度の資料とおっしゃっていただいた方がそろえやすいのだが。とにかく支援内容を基本的には全部ということか。

牛尾委員

かつて家賃が高いという批判もあったが、いろいろな話の中で、アパートを建てるオーナーは、これが埋まらなければやっていけないという話がある中、手数料は免除しようとかいう時代が延々続いた。今はそのとおりになっているかもしれない。そういう歴史、オーナーにとっては下げられない理由、返済もあるから。4万5千円が普通なのだと。どこと比較して高いか安いという意味でも、延々やってきている。今新たにその話をゼロからするよりも、そういった過程が資料としてあれば、過去こういうことをやってきた、実際こうである、だからという理屈があると、ある程度説得力があるかなと思う。今の家賃で成り立っている人に、家賃を下げろと言ってもできるわけないことは分かっている。過去つみあげてきた根拠があれば見せてほしい。そうすればその部分について無駄な議論をしなくて済む。

地域政策部長

特に学生の生活に関わりがあるようなことに対する支援内容なり、これまでの議論、対応の分かるようなものを出すということか。

牛尾委員

はい。少し面倒だろうが。

西村委員長

では、請願はそういうことで整理したい。その他、請願に絡んで資料や執行部の説明を求めたい部分があればここでご発言をいただきたい。

他にないか。

では、7番目、執行部からの報告事項に移る。

今のところ、執行部からの報告事項は8件あると聞いている。これでもよろしいか。

(「はい」という声あり)

議会運営委員会で決定したとおり、新型コロナウイルス感染防止の観点から、会議時間の短縮を図るため、執行部からは補足説明のみとし、その後委員から質疑を行うこととしている。従って委員も事前に資料は十分読み込んで質疑を行うようお願いする。

以上だが、これまでのところで何かあるか。執行部からも、委員からも。

(「なし」という声あり)

では、以上で執行部は退席されて構わない。

《 執行部退席 》

2 その他

西村委員長

先日全員協議会室で勉強会をした。その感想をそれぞれ簡単に述べていただいた上で、今後の研修の方向性について出し合って、できれば最終日くらいに、次は何の学習をするかまで持っていけたら嬉しいのだが。それは状況次第で。感想を簡単に出してもらいたい。

牛尾委員

更に勉強しなければいけないと強く感じた。参考になる、今後の研修

会、提言についてという貴重な資料があるので、次是非、どちらか読んでいただき、さらに勉強を重ねないと、まだ十分な域に達してないように自分で感じる。津和野高校の魅力化はとりあえず良いと思うが。少なくとも1番、2番という言い方が良いのか、熊本大学からか来てもらうにはお金がかかるだろうから、「森のようちえん」は鳥取県で近いから、かからないように思う。僕はこの際なので、更に勉強したい。

永見委員

私もまだ勉強不足というか、理解しかねているところもあるので、更に勉強させていただければと思う。

上野委員

私も小さい子どもと長いこと関わってきたのだが、この前の話に改めて、もっと力を入れるべき点があった気がした。しっかりしたことは分からないので、先生方の話を聞きながら肉付けしていきたい。

西川委員

県の施策、取り組みを紹介してもらった。浜田市をみると幼児教育イコール幼稚園教育のような感じがしているので、県のように保育園も含めた教育。生涯教育との関連を聞いたら社会教育の下に位置づけているとおっしゃったので、県の社会教育、生涯教育の中での幼児教育の位置付けも聞いてみたいし。県のレベルを市にも追随してもらいたいと感じた。

西田委員

幼児教育の一番根っこの部分をしっかりさせるために大事なものは何か、からいくと、1番の関山さんの考え方に大変共感している。浜田はまさに自然に恵まれて、全国どの自治体に比べても引けを取らない。浜田なりにどういう幼児教育が大事なのか、将来の人間形成を踏まえた幼児教育にとって自然体験が一番浜田市にはもってこいだと以前から思っていた。資料を拝見しても、講師先生の意見とリンクしている。非常に共感している。もし実際に行かれるなら是非。

関山さんいわく、知ることは体験することの半分にも満たないと。それはまさにずっと前から思っている。

牛尾委員

萩・石見を使えば早い。

芦谷委員

幼稚園も保育園も通わせずにいきなり小学校へ入った身分である。話を聞いていて、テーマが広がってきている感じがする。一体、この議論はどこに収束させればいいのか。1つには幼稚園・保育園が別々で、浜田市の就学前教育の方向性等がきちんとあると思う、それをもっていて、本当に推進するような体制作りを是非市にやってもらいたい。そのためには地域との関わり等も大事なので、具体的な目に入る形での提言がまとまればと思っている。

もう1つは、鳥取県は鳥取こども王国という条例を作っている。提言だけに留まるのか、予算を出すのか、場合によっては結果として浜田のなんとか条例みたいなものが提案できればと思っている。

牛尾委員

どう進めようかも迷っている段階で、とても着地のことなど考える余裕がない。

芦谷委員

着地を意識しながら、ということで。

三浦委員

まず感想だが、フレームをきちんと整えてくださるような概論をご教示いただいた。思考の整理に役だった勉強会だったと思う。ただ、幼児教育は具体的にどういう環境が必要なのかには踏み込んでない。あの時間ではなかなか難しかったと思う。もう少し、具体的な手法にはこんな

ものがある、こういう取組事例があるといったサンプルも示していただきながら、もう少し深掘りしたような勉強会が必要かと個人的には思った。

勉強会が終わった後にも質問してみたのだが、高校の魅力化は、魅力化アドバイザーを仮に市が設置する場合には、人件費を県がサポートする補助制度がある。それによって浜田市にも配置されているアドバイザーは県からの支援があるから配置しているという考え方。先日、幼児教育アドバイザーの話があったのをご記憶かと思うが、雲南や松江、出雲は設置している。浜田はなぜ設置してないのかと聞いたら、自治体内の保育園や幼稚園の数が少ないから、そこに1人役付けるのは費用対効果としてどうかというのもある、という答弁だった。具体的に高校魅力化アドバイザーみたいに、県がアドバイザーを設置した方が良いと推進するのなら、お金を出してアドバイザーをつけるようにサポートしたら良いのではないかと聞いてみたのだが、厚労省にはそういう制度があるが、2分の1なのである。県がそれに上乗せできないとなっていて、浜田市が仮にアドバイザーを置きたいというと、厚労省から人件費の2分の1貰える。しかし高校魅力化アドバイザーのように県が更に4分の1上乗せして、市の負担が4分の1になるというのはできないそうだ。つまり市の負担が大きいということ。県にそういったことを働きかけるというのもやり方の1つとしてあるだろう。できるだけ前向きに市も、幼児教育アドバイザーを市内幼稚園・保育園全部に行ってほしいというリクエストをされているお話があったので、市はそういうことに前向きなのだろうと思う。市の方針と支援内容がマッチするような、ある種は追い風になるような提言があっても、僕は良いのかなと思った。

この間の勉強会も経てどういう方にお越しいただき、どういう話を聞くのが良いか、皆にお尋ねしたくていくつかピックアップしてみた。

まず1番は、森のようちえんの実践者である。もともとニュージーランドの大きな国立自然公園のガイドをされていた方で自然教育を大事にしたいというので、日本帰国後に自ら幼稚園を作り実践されている方である。森の幼稚園を普及する全国的な協会があり、そこの理事もされている。自然体験教育や、世界を含めた幼児教育のさまざまな手法等をお持ちの方で、そうしたところも含めて幼児教育の効果や、現場も持っていらっしゃるので環境整備に求められる支援や制度といったことを具体的におうかがいできるのではないかと考えて推薦する。

2人目の方は、私は面識がないのだが、教育というと二言目にはこの先生のお名前が出てくるくらい有名な方。軽井沢の風越学園という、元々楽天の副社長だった方が作られた幼少中一貫校の理事をされている方である。この先生がさまざまな場所でご講演されたり、本を書かれているが、公教育とはそもそもどんなものなのかをお話される機会もいくつか拝見していて、浜田において幼稚園の統合や民営化といったお話がいつも出てくるし、直近の課題としてそういうのもあると思うので、公教育として幼稚園をどうするのかという点には、こうしたことも繋がっていくかと思って推薦する。

3人目は津和野町の教育魅力化統括コーディネーターで、彼はもともと

津和野高校の魅力化の担当をしていたコーディネーターなのだが、津和野町はゼロ歳児からの教育魅力化をやっていて、その全体の人員配置や外部からの人材獲得といった事業設計をやっていて、幼児教育というよりは、教育の魅力化を地域と連携しながらどう作っていくか、その仕組みづくりをまさに今実践している。近隣市町では学びが多いのではないかと思い、3人目に彼を挙げた。

4人目の杉浦先生は前回お話したように、歴史文化保存展示施設の検討委員会メンバーでもある武蔵野美術大学の教授で、この先生が、ゼロ歳児からの美術鑑賞や、保育園を丸ごと美術館にするとか。浜田においてはこども美術館等の社会教育施設がある中で、そうしたものを幼児教育にどうやって結び付けるかということについては具体的な研究事例を持っていらっしゃる方であるし、浜田に関わってくださるきっかけが生まれたということで、かなりこれは社会教育施設の幼児教育への活用をどうするかというところなので、具体的なテーマだと思う。今後議論が深まっていく時に、社会教育施設との関わりというものを具体的に検討していく時に話題提供ということで、こういう先生からお話を聞いたらいいのではないかと思います。

牛尾委員

4番目は何かのあれでメンバーになっておられるから、こちらにお見えになることもあるだろうから、そういうタイミングでしゃべってもらっても良い。

三浦委員

それでも良いと思う。

牛尾委員

市のバスで行って、3時間くらいで帰ってくれば良い。

三浦委員

おそらく2人目の先生が、スケジュール的にも予算的にも配慮が必要。今だとオンラインになると思う。でも接触する価値はある。もし来てくださるようなら、この人数で聞くのはとても勿体ない。

牛尾委員

来てもらうか、行って聞くか。

三浦委員

いろいろなやり方があると思う。個人的には風越学園に行ってみたい。

牛尾委員

軽井沢と横浜だろう。関東方面2泊3日で組込めば行けないことはない。

下間次長

今はコロナの関係で時期的に。

西村委員長

具体的に、こういう幼児教育をやっているという、いわゆる全国的に優れた事例として誰でも知っているようなものが私も良いと思う。目で見て分かる。

牛尾委員

ウェブ会議だけだと頭に入りにくい。

西田委員

我々は知識を得るだけではなく、考えないといけない。

牛尾委員

7月の終わりくらいだったのだろうか。あるいは8月頭。あの頃なら何も無い。

下間次長

行政視察の今後の考え方については、先日議長から支援本部会議のところで、いつから決めたら良いのかという話がでて、一定の考えがまとめられたらまた議員の皆に返すと思う。

牛尾委員

逆に我々から、この時期にこういう所へ行きたいのだがどうだろうか議長、という手もある。最初の段階で伺っておく方が良い気がする。

西村委員長

この間教育長が、幼児教育というか幼稚園教育というか、その方針を来年度に向けて出さないといけないと思っている。ついては、そうすると総務文教委員会でそういうテーマをもってやっておられるようだが、

そうであれば9月定例会くらいには一定の方向性が、もし出ていれば参考にさせていただくことは可能だけれども、それを過ぎると非常にしんどいと敢えて言われた。私はそれにあわせて焦っても仕方ないという思いがある。

牛尾委員

仕掛けるならその前にやっておかないと、統合ありきの議論になると思う。それを委員会でどう判断するか。

西村委員長

この会は一旦閉めるか。ひと通り皆から意見を頂戴したので、ここで一応閉めて、残りを19日にしたいと思う。委員会を終了する。

[12 時 12 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

総務文教委員長 西村 健 ㊟